

# 令和元年度 手作り教材集

1. ボタンの留め外し ファスナーの留め外し (日常生活)

2. びりびりできるかな? (日常生活)

3. マジックテープできるかな? (日常生活)

4. 手袋シアター 「5つのメロンパン」 (ことば)

5. コリントゲームでマッチングしよう (かず)

6. しゃこいれじょうすにできるかな (かず)

7. 拗音カルタ (ことば)

8. 入れるのは口かな? タンスかな? (ことば)

9. たべもの宅急便 (かず)

10. まるちゃんを見つけよう! (かず)

11. 4~8ピースのパズル (かず)

12. お祭りのお面を作ろう (図工)

13. 電動丸ノコを活用した「材料の切断用補助具」 (図工)

14. のりのりランドであそぼう (生活単元)

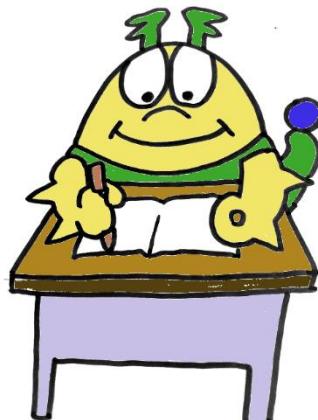
15. アイスクリームをつくろう! (生活単元)

16. センサリーバック (自立活動)

17. ピンポンホール (自立活動)

18. 運動会選手宣誓用のしあげ (行事)

19. こばと忍者 ニンニン (行事)



教材名	ボタンの留め外し ファスナーの留め外し
教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>＜ボタン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まだ、ボタンの留め外しに慣れていない児童だったので、直径4cmの大きなボタンで取り組んだ。</li> <li>操作しやすいように、ボタンを布にぴったりと縫い付けずに、プランプランした状態にした。</li> <li>卓上でできるようにした。</li> <li>土台を板状の固めの素材にすることで、引っ張るなどの操作がしやすいようにした。</li> </ul>
	
	
	<p>＜ファスナー＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開放型のファスナーの先端を留めるのが、まだ難しい児童のために作った。</li> <li>卓上でできるようにした。</li> <li>土台を板状の固めの素材にすることで、引っ張るなどの操作がしやすいようにした。</li> </ul> <p>＜活用できそうな教科領域および場面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の指導</li> <li>自立活動</li> </ul>

## 教材名 びりびりできるかな？（マジックテープ）

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
 	<p>(使い方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マジックテープをはがす練習用の教材。靴や服のマジックテープを、自分で、はがしたりつけたりできるようになることをねらった教材。</li> </ul> <p>(作り方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小さなホワイトボードの裏面に、両面テープつきのマジックテープを張り付けて土台を作る。ホワイトボード、土台のマジックテープ、リボン状のマジックテープは、100円ショップで購入が可能。</li> </ul> <p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リングをつけ、つまむ力が弱い児童やマジックテープの操作に慣れていない児童が、指を入れてマジックテープをはがせるようにした。</li> <li>土台が黒のマジックテープのため、見えやすい赤や黄色を上部につけ、見えにくい青・黒を下部につけた児童に提示し、難易度が徐々に上がるようとした。</li> </ul> <p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上手にはがせるようになってきたため、リングを少しずつはずし、端を指でつまんでマジックテープをはがすように取り組んだ。</li> <li>片手でマジックテープをはがす、もう片方の手で土台のボードを押さえる両手の動きが難しかった。ボードが机に固定されていると、一人で取り組める課題となる。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動</li> <li>日常生活の指導</li> </ul>

教材名

## マジックテープできるかな？

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>(使い方)</p> <p>マジックテープを剥がしたり貼ったりたりする。(保護者より、上履きの着脱ができるようになってほしいとの要望があり、マジックテープの部分をつまんで剥がすことが厳しかったので、マジックテープに重点を置いて練習できる教材を作成した。)</p>
	<p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色を変えることで、どのマジックテープを操作するのかわかりやすくなりました。</li> <li>・3段階の長さのマジックテープを用意することで、短いものから段階的に取り組めるようにした。</li> </ul>
	<p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは一緒に手を添えて練習を繰り返すうちに、指先でつまむことや手首の動かし方に慣れ、一人でもできるようになってきた。</li> <li>・休み時間に、自分から教具を取り、マジックテープを剥がしたり貼ったりして遊ぶ姿が見られるようになった。</li> <li>・土台のマットがずれないように教師が支えていたが、滑り止めをつけることで、児童一人でも取り組めるようになるのではないか。</li> <li>・実態に応じて、端がつかみやすいよう折り返して縫う、リングなどをつけるなどの手立てがあつても良いと感じた。</li> <li>・今回は、どちら側からでも貼ったり剥がしたりできるようにしたが、端を縫うことにより操作しやすくなると感じた。</li> <li>・靴を履く際に、「テープ、ペりっ」と言葉かけをしながら手を添えて練習を繰り返すうちに、次第に言葉かけのみで靴のマジックテープを剥がす</li> </ul> <p>ことができるようになってきた。</p> <p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動</li> <li>・日常生活（靴の着脱時やマジックテープのついた衣服の着脱時）</li> </ul>

教材名

## 手袋シアター「5つのメロンパン」

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>(作り方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>100均のフェルトとカラー手袋を使用。</li> <li>フェルトでメロンパンを5個、こども人形を5個、パン屋さんを1つ作り、洋服の部分（表）とメロンパン（裏）、パン屋さんの店の部分にマジックテープをつけ、メロンパンを貼れるようにした。</li> <li>パン屋さんやこども人形をボンドで手袋に張り付けたら完成。</li> </ul>
<p>★</p> 	<p>(使い方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「5つのメロンパン」の歌に合わせて、メロンパンを操作しながら行う。</li> <li>「♪こどもがおみせにやってきて～」の部分を「♪○○君がおみせにやってきて～」に歌詞を変え、一人ずつ名前を呼びながら行う。</li> <li>「♪はい、どうぞ」の歌詞のタイミングで手袋を児童の近くにもっていき、メロンパンをつまみ、人形部分に張り付けられるようにする。</li> <li>写真★のように、一つずつパン屋さんからメロンパンが人形のところに移動していく。一人が終わるごとに「パン屋さんに○個残っているね」と数を確認しながら行う。</li> </ul>
	<p>(工夫した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人がメロンパンをつまんで操作しやすいように、中に綿を入れて立体的にふくらさせた。</li> <li>一人ひとりの名前を呼びながら、進めていくことで自分の名前が呼ばれると張り切ってメロンパンをつまむようになった。</li> </ul> <p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人形の洋服部分にあるマジックテープ部分をもう少し大きくした方が貼りやすくなるので改善していきたい。</li> <li>児童によって手袋を目の前に提示するタイミングを変え、貼りやすいようにしていく必要がある。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ことば・かず</li> <li>朝、帰りの会</li> <li>読み聞かせ、授業等の導入</li> </ul>

教材名

コリントゲームでマッチングをしよう

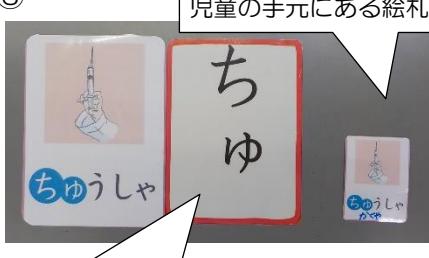
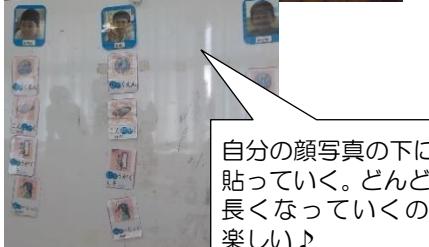
教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業台（小）の幅で台を作成した。玉が転がるように上部の箇所に木を打ち込み、傾斜ができるように調整した。ボールは、ゴルフボールを使用している。軽いボールよりも重いボールの方が、釘にあたった時に音がして方向が変わるため、子供たちも注視していることが多い。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが興味を持てるようなキャラクターを使用して作成した。面に貼ってあるイラストもあれば、釘にかぶせるイラストもある。ボールが転がって釘にかぶせてあるイラストに当たると、クルクル回るようになっている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>釘にかぶせてあるイラストの断面はボールが当たった時に回るような羽が付いている。釘にかぶせるストローは、いろいろ試した結果、タピオカを飲むときに使用するストローが一番適していた。（この大きさと釘の太さの関係で）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールが転がり落ちる部分にイラストが貼ってある。ボールが入ったところのイラストを剥がして、ホワイトボードに貼ってあるイラストとマッチングする。ボールの動きを目で追い楽しんでいる児童もいる。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <p>【ことば・かず】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数字と十一などのイラストを用意して、ボールが落ちた数や十一などで計算をする。</li> <li>「ひらがな」のイラストを用意し、ボールの落ちた平仮名とホワイトボードに貼ってあるイラストのマッチング。</li> </ul>

教材名 「しゃこいれじょうずにできるかな」

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p><b>【使い方】</b></p> <p>①のりものはどれかな？ ～言葉かけや、見本を見て正しい色・種類の乗り物を取る。児童によって「△△をください」「○色の□□をください」など指示の仕方を変える。</p>
	<p>②車庫にいれよう ～乗り物を同じ色の車庫に入れる。(6色のマッチング)</p> <p>③ラベル貼り ～2～3択の中から見本と同じ平仮名カードを選び、マッチングさせる。</p>
	<p><b>【工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ラミネート加工だけでは折ってしまう場合があるため、乗り物はダンボールの型の両面にラミネートを貼った。</li> <li>○発達の段階に応じられるように、違いの分かりやすい色や近い色など6色を用意した。</li> <li>○ことば・かずのどちらの学びもできるように、一つの教材でいろいろな学び方ができるようにした。</li> </ul>
	<p><b>【使用感・改善点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標が違う児童にも、それぞれに合った学習の仕方ができた。</li> <li>○注目しづらい児童もいるので、より意欲がわくように好きな乗り物も取り入れたい。</li> <li>○今後は同じ色で違う形など、バリエーションを増やしていきたい。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt; ことば・かず</p>

教材名

## 拗音（ようおん）カルタ

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
<p>①</p> 	<p>(使い方)</p> <p>用意するもの…ホワイトボード、児童の個別写真、大きい読み札、小さい絵札（人数分セット×人数分）</p> <p>① セット組してある絵札が入ったジップロックを児童の机に配る。</p> <p>② 児童はジップロックから絵札を出して、自分の机に並べる</p> <p>③ 前でT1が、大きい読み札を出しながら、読む。（例、「しゃ」） →慣れてきたら、読まずに掲示するだけにする。</p> <p>④ 自分の机に並んでいる中から絵札をさがして、前のホワイトボードに貼って、自席に戻る。</p> <p>⑤ T1が全員貼れたことを確認してから、順番に一人ずつ回りながら拗音を読みあげる。</p> <p>⑥ 次の問題…絵札がなくなったら終了。</p> <p>⑦ カルタに出てきた単語を、各自の実態に合わせたプリントを使って、なぞり書きや視写をする。</p>
<p>②</p> 	
<p>③</p> <p>児童の手元にある絵札</p>  <p>はじめはイラスト付き、慣れたら文字のみの読み札を掲示</p>	<p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人に同じ絵札セットを配ったこと →活動量の確保、待ち時間の削減、勝負へのこだわりをもたせない</li> <li>ホワイトボードに貼る →自席で選び、貼りに来るまでの様子（早い、遅い、自分で、周りを見てなど）から、理解度が分かる。自分の写真の下に、どんどん絵札がたまっていくので、達成感をもてる。</li> <li>一人ずつ音読→テンポよく読める。児童の苦手な発音が分かる。</li> </ul> <p>使用感。・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自閉傾向がある児童にとって、ホワイトボードに絵札カードが並んでいく活動は、楽しく取り組めていたようだった。</li> <li>○勝負にこだわる児童もいたので、優劣の結果発表はせずに、全員が貼れたことへの称賛を繰り返すと、活動中児童同士で助言しあう様子も見られた。</li> <li>●拗音の中には、身近な単語で使われないものもあり、バリエーションをもたせるのが大変だった。</li> </ul>
<p>④</p>  <p>自分の顔写真の下に貼っていく。どんどん長くなっていくのが楽しい♪</p> 	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <p>ことば・かず</p>
<p>⑦</p> 	

教材名

入れるのは口かな？タンスかな？

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>＜使い方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物（ハンカチ、紅白帽子等）や果物模型（バナナ、メロン等）などを口の中かタンスの中に入れる活動。</li> <li>・実物や果物模型と同じようにイラストカードをなかまわけをしたり、文字カードへとステップアップしたりすることもできる。</li> <li>・実物と食べ物模型を一つずつ渡し、それぞれ正しい穴に入れる活動をする。</li> <li>・二つ一緒に持っていると難しいようであれば、一つずつ渡して行うのもよい。</li> <li>・低い位置にあると入れづらいので。高めの机の上で使うのがよい。（1年生のグループ学習でも、6年生用の高い机でちょうどよかった。）</li> </ul>
	<p>＜工夫したこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・穴は大き目に作ってあるので、大きい食べ物の模型（教材室にある物等）も入れることができる。</li> <li>・タンスの方は本物のように開いたり閉めたりができるようにしてある。</li> <li>・あらかじめパワーポイントで使い方を確認したり、見本を見せたりしてから取り組んだ。</li> </ul>
	<p>＜使用感・改善点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンスを開ける活動は抵抗なくできていた、むしろそれが楽しいように見えた。本物に近い感覚で操作できれば、実生活にも役立つと思う。</li> <li>・箱の内側を仕切っていないので、口の側から覗き込んで衣服が見えてしまったりした。一つずつ別の段ボールで作成した方が良かった。</li> </ul>
	<p>＜活用できそうな教科領域および場面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習</li> <li>・朝の課題学習の時間</li> <li>・自立活動</li> </ul>
	

教材名 たべもの宅急便

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>(使い方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色と具体物のマッチングをする課題である。</li> <li>・手元を注視したり、物を持ち続けて運ぶことも目標としている。</li> </ul>
	<p>① 教室中央に3台机を離して配置し、中央の机に2色の宅配トラックを置く。トラックの中にはあらかじめ、それぞれの色に対応した食べ物の模型を入れておく。</p>
	<p>② 左右の机に食べ物の模型を2種類置いておき、そこから中央のトラックまで持って行き、同じ模型が入っているトラックに入れる。</p> <p>③ 二人とも全ての模型を入れ終わったら、前方の机に二人で一緒にトラックを運びます。前方の机には家と荷物を待っている子のイラストを貼っておく。</p> <p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人で一緒に運ぶことができるよう、トラックに持ち手を付けた。</li> <li>・乗り物に興味がある児童を対象としていたので、トラックをモチーフにした。</li> </ul>
	<p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し取り組むことで、模型を持ってトラックに入れるという活動が分かったようで、自分から入れようとする姿が見られた。</li> <li>・「おなじ、おなじ」と言葉をかけながら、初めは指差して入れるところを示していたが、徐々に入れるトラックが分かる児童もいた。</li> <li>・トラックの中も、外側と同じ色で塗ると、より分かりやすかったと思う。</li> <li>・初めは具体物のマッチングとして取り組み、徐々に色のマッチングへと段階を上げる予定だったが、児童の様子からそこまでに至らなかった。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことば・かず</li> <li>・自立活動</li> </ul>

教材名

# まるちゃんを見つけよう！

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>教材の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせの絵本と対応させて、2つのケースから「まるちゃん」を見つける教材。</li> <li>引き出しのようにして、自分で引っ張って見つける。</li> </ul>
	<p>工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケースと箱の色を統一し、分かりやすいようにした。</li> <li>箱を上からかぶせられるようにし、ケースの中をすぐに確認できるようにした。</li> <li>ケースに鈴を付けて、鈴の音で正解が分かるようにした。</li> </ul>
	<p>使用感、改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一度ケースの中を確認すると、中に入っていることが分かり自分で取り組んでいた。</li> <li>ケースの中に入っている個別課題は、実態に合わせて型はめやプットインの教材にしている。</li> </ul>
	
	<p>活用できそうな教科領域および場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動</li> <li>個別課題</li> <li>各教科</li> </ul>

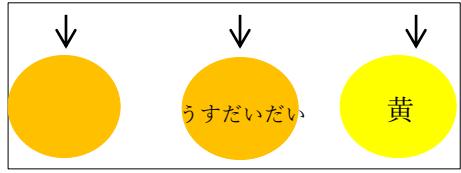
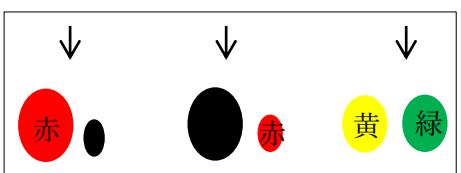
教材名

## 4~8ピースのパズル

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
<p>③、②</p>	<p>(使い方)</p> <p>① となりにある見本を見ながら、4~8ピースに分かれたA4サイズのイラストを完成させる。</p> <p>② 完成させたイラストの名前を2つの選択肢から選ぶ。</p>
	<p>③ 机上でできる小さめの4~6ピースに分かれた、A5サイズのイラストを完成させる。</p>
<p>③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左の見本を頼りにイラストを完成させ、イラストの名前の上に名前カードを合わせる。</li> <li>イラストの名前の部分を、なぞりがきができるようにした。</li> </ul>
	<p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5人のグループで取り組んでいて、はじめは一人ずつみんなの前に出て行っていたが、見ている4人の待ち時間が長く、飽きている児童の様子も見られた。そこで、待っている児童も取り組めるよう、小さめのパズルを一人一人に用意した。</li> <li>パズルの大きさに合った枠を用意したり、4ピースから8ピースのパズルを用意したりとそれぞれの児童がなるべく一人でできる教材作りをした。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばかず</li> <li>自立活動</li> </ul>

教材名

# お祭りのお面を作ろう

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
1日目の掲示  	<p>紙粘土を使った立体作品の作成（3時間扱い）</p> <p>（作り方）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンパンマン、ミッキーマウス、によぽん（第二養護学校キャラクター）の中から好きなキャラクターを選ぶ。</li> <li>・チューブから絵の具を出し、紙粘土で包むようにしてこねる。</li> <li>・皿の上に粘土を伸ばし、お面の土台を作る。（1日目）</li> <li>・紙粘土を分けてそれぞれのパーツを作り、土台につける。目の部分にペットボトルキャップを埋め、耳の部分にゴムを通すための穴を開ける。（2日目）</li> <li>・ペットボトルキャップを取り、穴にゴムを通して結ぶ。（3日目）</li> </ul> <p>（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したお面を模造紙に貼り付け、黒板に掲示した。その下に、お皿を貼り付けた模造紙を掲示し、子供に作り方を説明しながら、実際にお皿に粘土を付けていった。本時ではここまで作りたいという目標を掲示物として示したことで、その日の活動の見通しを子供にもたせることができた。</li> <li>・お面の掲示物の中から、好きなものを一つ指さして選ばせることで、子供の作りたい気持ちを高めることができた。</li> <li>・軽くて柔らかく、よく伸びる紙粘土を使用したこと、手に力が入りにくい子供も、粘土をこねることができた。また、絵の具をつけて、粘土をこねたり伸びたりすることで、手のひらの感覚を刺激し、粘土の色がマーブル状に変わっていく様子を楽しむことができた。</li> </ul> <p>（改善点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供に人気のあるキャラクターを3つ選んだが、アンパンマンとミッキーマウスは、どちらも赤、黒、うすだいだいの絵の具を使っており、色が似てしまったので、違う色のキャラクターを入れればよかった。（ドラえもんなど）また、ほとんどの子供がアンパンマンを選んだので、いろいろな作品を鑑賞するという点で考えると、3つのキャラクターを何にするかは再考した方が良いと感じた。</li> </ul>
2日目の掲示  	
完成 	<p>（活用できそうな教科領域および場面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図工</li> </ul>

&lt;制作者&gt;〇・T

教材名

「電動丸ノコを活用した『材料の切断用補助具』」

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
<p>①</p> 	<p>(使い方)</p> <p>①補助具のふたを開ける。</p>
<p>②</p> 	<p>②切断する材料を枠に入れる。</p>
<p>③</p> 	<p>③ふたを閉じる。</p>
<p>④</p> 	<p>④持ち手に手を乗せて奥に押す。</p> <p>⑤持ち手を手前に戻し、ふたを開けて材料を取りだし、脇の箱に入れる。</p> <p>※①から⑤までを繰り返す。</p> <p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電動丸ノコの刃が子供から見えないように、厳重にカバーを施した。</li> <li>作業台の下にもカバーをすることで、より安全に使用できるようにした。</li> </ul>
<p>⑤</p> 	<p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全面に配慮し、子供が一人でスイッチを押して動かすことのないように、フットスイッチを使用し、電源のオンオフは教師が行うようにした。</li> <li>初めは、電動工具から出る騒音を怖がって近寄ることもできなかったが、イヤマフを活用することで徐々に慣れてきた。</li> <li>ある程度続けて取り組むと、粉じんが可動部にたまり、操作しにくくなる様子が見られたので、集じん機を使用して吸い取るようにした。</li> </ul> <p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <p>生活単元学習（木工作業的な活動）</p>

教材名

のりのりランドであそぼう

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>(ねらい)</p> <p>○地面をけったりペダルを踏んだりして、乗り物をこいで進むことができる。</p> <p>○遊び方や交通ルールを守って、乗り物を乗ることができます。</p> <p>○自分の好きな乗り物を選んで、楽しんで遊ぶことができる。</p>
<p>①</p> 	<p>(乗り物) 自転車(一人乗り、コロ付き)、三輪車、キックボードなどいろいろな乗り物を車庫に置き、児童が乗りたいものを選んで楽しめるようにした。</p> <p>① ひらひらクルーズ(ひらひらカーテン) スタート付近に設置し、くぐるドキドキ感をあじわったり、ここからスタートをするという見通しをもったりできるようにした。</p>
<p>②</p> 	<p>交通ルールを守りながら走行できるように、信号を道中に設置した。信号をよく見てほしかったので、人力ではあるがフードを折りたためるようにして信号の色が変わるように仕掛けを作った。</p>
<p>③</p> 	<p>③ でこぼこマウンテン(でこぼこ道) あまり段差をつけたり、硬い素材の物を使用したりすると走行中の転倒が起るので、クッション性があるポリエチレンという素材を使用した。</p> <p>(工夫) 段差をつけるのに、クッション性があるポリエチレンという素材をすることで乗り物を乗って通った時に程よい段差になって良かった。使用していて1回も転倒がなく遊べたので安全面も良好だった。</p>
	<p>(使用感・改善点) ひらひらカーテンでは、風が強いと倒れてしまったので土台を重さがしっかりとあるものにする必要性があった。信号では、授業を重ねる毎に子どもたちが「赤は止まれ」、「青は進め」ということを理解できるようになったので良かった。</p> <p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt; 生活単元学習（乗り物単元）</p>

教材名

アイスクリームをつくろう！

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生日会での調理活動として考えた。40分間で調理、食べる、片付けまで済ませること、学年の児童が全員好みそうなもの、という条件で考えた結果、アイスクリーム作りとなった。</li> </ul> <p>&lt;材料&gt; 8人分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牛乳200ml</li> <li>生クリーム200ml</li> <li>スティックシュガー20本</li> </ul>
	<p>&lt;使用する物品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジップロック（大）2枚、（中）2枚</li> <li>計量カップ1つ</li> <li>スプーン</li> <li>氷1kg程度</li> <li>大きめのかご2つ</li> <li>スコップ2つ</li> <li>塩330g程度</li> </ul> <p>&lt;作り方&gt;（児童の活動）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>計量カップで牛乳100ml、生クリーム100mlを量り、ジップロック（中）に入れる。スティックシュガーを10本入れる。（1袋で4~5人分作れるので今回は2袋分作る。）</li> <li>ジップロック（大）にスコップで氷と塩を入れる。その後、中に先ほどのジップロック（中）を入れる。</li> </ol> <p>※ジップロック（中）の周りに氷がしっかり行きわたるようにすると固まるのが早い。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ジップロック（大）をかごに入れて、かごの左右を一人ずつ持ち、前後に揺らす。※BGMなどをかけると楽しい。</li> <li>5分ほど揺らすと固まるので、頃合いをみて取り出し、皿によそう。</li> </ol>
	<p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スティックシュガーにしたことで、袋を開けて入れるという児童の活動ができた。</li> <li>ジップロックを使用したことで、時間内に片付けができるようになった。</li> <li>BGMをかけることで、アイスクリームに期待感をもち、より楽しく活動することができた。</li> </ul>
	<p>&lt;今後の改善点、注意事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>氷と塩を入れたジップロックは冷たくなるので触らないよう注意が必要。また、かごに入れて揺らしていると、塩が出てくることがあるので、さらに上から袋をかぶせる、かごではなく持ちやすい箱にするなどの対策が必要。</li> </ul> <p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <p>生活単元学習（調理単元）</p>

教材名

## 「センサリーバッグ」

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>袋の中のおもちゃを指先で動かしたり、握ったりつまんだりして、感触遊びを楽しむ教材。</li> <li>触ることで気持ちが落ち着いたり、指先で探って楽しんだりできる事を期待して作成した。</li> <li>大きさ、色、形への興味・関心を促したり、一緒に遊びながら、言葉や数と結びつけたりすることもできるかもしれない。</li> </ul>
	<p>&lt;材料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>透明な保存袋（厚手の物の方が安心）</li> <li>洗濯のりまたは保冷剤の中身</li> <li>ビーズ スーパーボール ゴムのおもちゃなど</li> </ul>
	<p>&lt;作り方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存袋に洗濯のりまたは保冷材の中身を入れる</li> <li>ビーズなどいろいろな色や形、大きさや固さの物を考えて入れる動かせる隙間があるくらいの数を入れる</li> <li>保存袋の口を閉じ、中身を動かしてみる</li> <li>良ければ、袋を2重にして、周囲をガムテープで留める</li> </ul>
	<p>&lt;注意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存袋が破けないようにする。（かじったりする場合は危ない）</li> <li>冷やしたり温めたりしても遊べる。</li> <li>大きい布団圧縮袋を使うと、寝転んだりして遊べるようだが、まだ作ったことはない。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別課題</li> <li>自立活動</li> </ul>

教材名

## ピンポンホール

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
	<p>(ねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誕生日会でケーキについているろうそくの火を消す時になかなか息を吹こうとしない児童がいた。そのため、息を吹く機会を多くしたいという思いでこの「ピンポンホール」を作った。</li> </ul> <p>(使い方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白いピンポン球に向けて息を吹きかける。</li> <li>転がったピンpong球が奥の穴に入る。</li> </ul> <p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピンポン球と下地はハッキリと違う色にした。</li> <li>軽く息を吹きかけるだけでも転がるピンpong球を使用した。</li> <li>転がりやすいよう土台は平らな面を使用した。</li> <li>ゴール部分に穴をあけ、穴に入れるゲーム性を作った。</li> <li>ピンpong球を置く場所、ゴールに色をつけた。</li> <li>スタート位置の線は段差の高さが高すぎると軽い息で進まず、段差が低いと色々な場所へ転がってしまうので試行錯誤の末、フェルト生地を貼った。</li> <li>ピンpong球が落ちると「コン」と音が鳴るように、箱の中は空洞のままにした。</li> </ul>
	<p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピンpong球を一つずつ手渡ししていたので、一人で行うには別に容器を付ける等の工夫が必要。</li> <li>今後、ゴールの穴を小さくしたり、ゴールに向かう途中段差を付けたりして難易度を上げていく必要がある。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動</li> <li>個別課題</li> </ul>

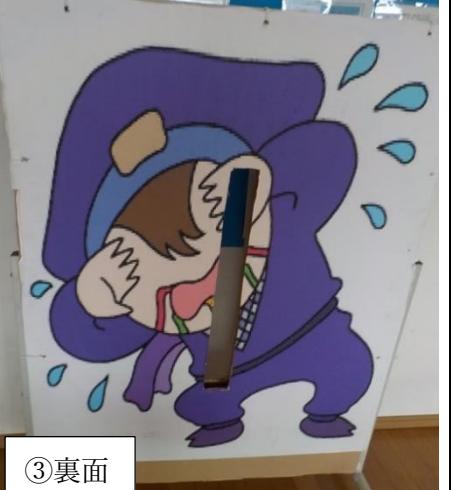
教材名

## 「運動会選手宣誓用のしあけ」

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
<p>⑥</p> 	<p>(使い方)</p> <p>①子供がひもを引っ張る。</p>
<p>⑦</p> 	<p>②紐を引っ張ることで、ストッパーが外れ、「がんばります」の垂れ幕が上がる。</p>
<p>⑧</p> 	<p>③しあけの上部にセットした重りが下に移動することで、垂れ幕が上がる。</p> <p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「選手宣誓は、話ができる子がする」という固定観念を見直し、「どの子も取り組めるようにするにはどうしたらいいか」というところから、このしあけの発想はスタートしている。(写真左下の児童は重複児童。)</li> <li>滑車を活用することで、小さい力で大きな物を動かすことに挑戦した。</li> </ul> <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひもを引っ張る角度によって、力の強弱が変わったので、ひもに取り付けたストッパーの角度を微調整した。</li> <li>さらに軽い力でできないか、検討の余地はある。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <p>集会の挨拶等</p>

教材名

## こばと忍者 ニンニン

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
 ①手裏剣	<p>(使い方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手裏剣の向きを確認して中心の穴に入れる。</li> <li>手裏剣の大きさは直径50cmの大きさ</li> <li>穴の大きさは約70cmの大きさに設定した。</li> </ul>
 ②表面	<p>(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手裏剣を入れる時の絵と入れた後の絵を違うものにした。</li> <li>表面、手裏剣を入れる、裏面でストーリー性がある。</li> <li>手裏剣より少し大きい穴で大きすぎないギリギリの大きさにしてある。</li> <li>手裏剣を入れている様子が横から見ても分かりやすいように縦にしている。</li> <li>日常生活で縦に物を入れる経験があまりないので横入れより難易度が高い。</li> </ul>
 ③裏面	<p>(使用感・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>厚口の段ボールを手裏剣に使用したが、回数を重ねると手裏剣の刃の部分が折れたり曲がったりしてしまう。</li> <li>絵の表と裏の穴の間に隙間があるので手裏剣が引っ掛かることがあった。</li> <li>絵の枠にキャスターが付いているので室内だと動いてしまい、屋外だと倒れてしまうので使用するときは土のう袋など置いてしっかりと固定が必要。</li> <li>絵の裏表の忍者の色を統一した方が良かった。</li> </ul>
	<p>&lt;活用できそうな教科領域および場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動会</li> <li>生活単元学習</li> <li>学校行事</li> </ul>